

5 テクスト重視のアプローチ

ライティングは書き言葉によるコミュニケーションである。したがって、伝えたい内容を正確に読み手に伝えるためには、「どのような文構造でどのように表現するのが最も適切になるのか」(富永, 2013, p. 80) に配慮する必要がある。つまり、ライティングにより適切なコミュニケーションを行うためには、語彙や文法項目の選択から全体的な文章構成に至るまで、様々な点に注意をしなければならない。このような、文レベル及び文章レベルにおける、書かれたもの (product) に焦点を置いたライティングの捉え方をテクスト重視のアプローチと呼ぶ。

まず、文レベルにおいては流暢さ (fluency)・正確さ (accuracy)・複雑さ (complexity) という尺度に基づいた分析が行われる。そこでは、語数、誤りの数、**T ユニット (T-unit)** や句の数など様々な指標が用いられる。T ユニットとは文の複雑さを示す指標のことと、独立節及びそれに付随する従属節から成る (Hunt, 1966)。これらの指標を使い、書き手の統語的発達 (syntactic maturity) を測る研究や (Hunt, 1977), 優れた書き手を特定する上で有効な指標を探る試みが行われた (Wolfe-Quintero, Inagaki, & Kim, 1998)。

文章レベルに焦点を置いた指導法の例としては、**パラグラフ・ライティング (paragraph writing)** が挙げられる。パラグラフ・ライティングとは、パラグラフの構成や論理の展開方法などに基づく指導を行うことで、全体としてまとまりのある文章を書けるようにすることを目指した指導法である。英語のパラグラフには、日本語の段落とは異なる多くの特徴が存在している。例えば、1つのパラグラフ内で示されるアイデアは1つのみと決まっている。この性質は**統一性 (unity)** と呼ばれ、パラグラフにおける意味のまとまりを表す。したがって、同一のパラグラフ内では複数のアイデアに言及することはできない。また、パラグラフの構造としては、冒頭の主題文 (topic sentence) においてパラグラフ全体の論旨が提示され、次に支持文 (supporting sentences) で、具体例などを示すことにより論旨に対する補足的な説明が加えられる。最後に結論文 (concluding sentence) において、主題文で提示されたアイデアが別の表現に言い換えられることにより1つのパラグラフとなる。その他、多数存在する英語特有のパラグラフの構成法 (「分類」「比較・対象」「原因・結果」など) を指導することで、日本人英語学習者でも「英語らしい文章」が書けるようになることが期待されている。

文章を構成する各々の文は、相互に関連し合って1つのまとまりを成しており、このようなまとまりのある文章を**談話 (discourse)** と呼ぶ。そして、文章を

談話として成り立たせているのが、**結束性 (cohesion)** と**一貫性 (coherence)** である。Richards and Schmidt (2010) によると、結束性とはテクストの異なった要素 (element) 間における文法的または語彙的な関連性のことを指す。また、結束性は主に、語彙の言い換え、代名詞や定冠詞、つなぎ言葉によって生み出される (大井・上村・佐野, 2011)。一方、一貫性はテクスト内の複数の文を意味的に関連付ける性質のことである。これは主に、言語使用者の持つ知識などによってもたらされる (林, 2015)。つまり、結束性と一貫性が認められない文章は談話として機能できないため、その内容を読み手に正確に伝えることが困難である。

以下の文章には結束性を示す要素が複数見受けられる。特に下線が引かれた箇所については、単独で意味が理解されることではなく、その解釈には別の要素を考慮する必要がある。

The procedure is actually quite simple. First you arrange things into different groups. Of course, one pile may be sufficient depending on how much there is to do. If you have to go somewhere else due to lack of facilities, that is the next step, otherwise you are pretty well set.

(Renkema, 1993, p. 35, 下線は筆者による)

下線が引かれている箇所において、代名詞の “that” が “If you have to go somewhere else due to lack of facilities” を示していることがわかる。また、語彙の言い換えにより “the next step” が “The procedure” を構成する段取りの1つであることが理解できる。したがって、これらの間には結束性が認められる。一方、上記の文章は意味的な繋がりが不明確であるため、“facilities” や “procedure” が具体的に表していることを特定することができない。しかし、この文章が “washing clothes” について書かれている文章だとわかると、“facilities” が洗濯機を、“procedure” が洗濯手順をそれぞれ表しているということが理解できる。このように、読み手に正確に内容を伝えるためには、結束性と一貫性の双方を兼ね備えた文章を書くことが求められる。

以上のように、テクスト重視のアプローチでは、文章の形式面に焦点を置いた指導が行われる。ライティングは書き言葉によるコミュニケーションであるため、形式面の指導は不可欠である。したがって、今後多くの場面で、テクスト重視のアプローチに基づく指導が行われることが予想される。

(上原 岳)